

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 16 No.4 2014年2月28日号

問い合わせ：cnar@cnar.jp ホームページ：<http://cnar.jp>

Copyright 2014 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■プリンストンテクノロジー、Vidyo 社とパートナーシップ強化、フレキシブルテレプレゼンスソリューションと手のひらサイズの Vidyo 端末を発表

Vidyo 社とプリンストンテクノロジー株式会社(東京都千代田区)は、「VidyoPanorama 600」と「VidyoRoom HD-40」の新製品発表を兼ねて日本国内におけるチャネルパートナーシップ契約の展開強化について2月5日都内にて発表会を開催。(取材:2月5日・2月18日)

プリンストンテクノロジーは 2011 年より国内代理店として Vidyo ビデオ会議ソリューションを販売してきたが、モバイル、デスクトップ、会議室/グループ、テレプレゼンスとこれまで以上に幅広い Vidyo 社のビジュアルコミュニケーションソリューションを充実させることで、さらに幅広い顧客層へ Vidyo 製品の販売を拡充していく計画だ。

その中で、プリンストンテクノロジーとしては、独自の強みを組み合わせたユニークかつ訴求力のある Vidyo ソリューションを開発・提供していきたいと考えている。

VidyoPanorama 600 は、最大6画面マルチスクリーン対応のフレキシブルなテレプレゼンスソリューション。6画面使用した同時表示は最大48拠点(同時画面表示、CP)まで対応している。VidyoPortal/VidyoRouterで構成される会議サーバーにアクセスし、ビデオ会議を行うことができ、VidyoPanorama 600は、Vidyo社の他のエンドポイントと同様に「VidyoPortal」や「VidyoRouter」の Vidyo 会議サーバー環境下で動作する端末で、モバイル端末や PC、VidyoRoom などの専用端末とも簡単に接続が可能。会議の同時接続数は、VidyoPortal および VidyoRouter の会議サーバー側の構成による。

「他社メーカーのテレプレゼンスは、同室感を実現するところ

を目的としているため、室内の施工まで含めると非常にコストのかかるソリューションだが、Vidyo Panorama 600 は、最大48分割で複数の拠点を同時に表示できることや、モバイルやPC端末ともシームレスにつながるなど、ビデオ会議としての実用性を考慮したソリューションであり、他社とは違うアプローチをとっている。」(プリンストンテクノロジー)



写真上：「キャスター付きフロアマウントパッケージ」
 写真中：「壁掛けマウントパッケージ」
 写真下：「天吊りマウントパッケージ」
 (プリンストンテクノロジー 資料)

「ただし、Vidyo Panorama 600 は、ディスプレイや音響などの AV システムとのインテグレーションが必要だ。そのためユーザーにわかりやすいように、Vidyo 社、映像センター社、そして当社の 3 社で協力して、簡単導入を実現する『Vidyo Panorama 600 AV パッケージソリューション』を用意することにした。」(プリンストンテクノロジー)

Vidyo Panorama 600 AV パッケージの基本構成は、コードック本体のほか、薄型 50 型ディスプレイ(x6 面)、CHIEF 社製各種ディスプレイマウント、SONY 社製 HD カメラ、BIAMP 社製エコーキャンセラー、SHURE 社製集音マイク、YAMAHA 社製ステレオスピーカー、システム設置&調整作業である。

なお、テレビ会議操作のためには、リモコンが標準で同梱するが、Android や iPad を使った VidyoRemote を推奨する。アドレス帳などからテレビ会議開始や会議中のカメラ操作などを行える。このデバイスは WiFi ネットワーク経由でコードック本体に接続する仕組みになっている。

以上の基本構成に基づき、「キャスター付きフロアマウントパッケージ」、「壁掛けマウントパッケージ」、「天吊りマウントパッケージ」の設置スタイルで選べる 3 つのパッケージを提供する。価格は、それぞれ 1000 万円(税抜、以下同)、950 万円、980 万円となっている。

「高品質な映像と音声ながらコストについては他社テレビプレゼンスよりも 1/2 から 1/10 に抑えたユニークな低価格テレビプレゼンスソリューションだ。3 つのパッケージはユーザーが Vidyo Panorama 600 の導入をしやすくするためのベーシックなモデルとして展開する。それ以外のニーズにあわせたシステムインテグレーションも可能だ。」(プリンストンテクノロジー)

CHIEF 社製ディスプレイマウントは、プリンストンテクノロジーの販売パートナーである映像センター(東京都江東区)が提供している。

「当社が取り扱っている CHIEF 社製ディスプレイマウントは、キャスター、スタンド、天吊りタイプとユーザーニーズに合わせてさまざまな設置スタイルに対応している。メンテナンス

も容易だ。Vidyo Panorama 600 向けには Fusion シリーズを提供する。」(映像センター)

想定する利用ケースとしては、企業の本社や統轄拠点の大会議室や役員会議室のほか、災害対策本部、遠隔授業、学会などのカンファレンス、院内の患者モニタリングなど、企業・官公庁/自治体・教育機関・医療機関などという。

プリンストンテクノロジーによると、デモ環境の整備の一環として、東京本社、大阪支店には、Vidyo Panorama 600 AV パッケージを設置済み、また、近日に福岡支店にも同パッケージを設置し、社内利用のほか、導入検討企業向けなどにデモが行えるように用意している。



東京デモルーム (プリンストンテクノロジー 資料)

一方、VidyoRoom HD-40 は、手のひらサイズのコンパクトかつパワフルな省スペースグループ向けエンドポイント。Intel NUC (インテル ネクスト・ユニット・オブ・コンピューティング) ベースで開発されている。

スペック的には、H.264 SVC をサポートし、エンコードで最大 720p30fps またデコードで最大 1080p30fps。コンテンツ共有については、相手側のコンテンツ映像は受信可能だが、コンテンツ送信はサポートされていない。そのため、かわりにタブレット用のコンテンツ共有「VidyoSlate」を組み合わせて利用することを推奨している。

本体には、PTZ 対応 HD カメラや Web カメラ、USB マイク・スピーカーを利用できる。またディスプレイは、HDMI 端子に対応している。ディスプレイ x 2 画面表示サポート(ビデオ + コンテンツ)。



VidyoRoom HD-40 (写真左) のモデルラインナップは、HD-40 本体とリモコンのみの

基本モデルのほか、会議室向けの「Pro パッケージ」を提供する。参考価格は、それぞれ 25 万円(税抜、以下同)と 43 万円。

Pro パッケージには、HD-40、リモコンのほか、EVI-HD7V カメラ、Phoenix Quattro3 マイク・スピーカーが含まれる。

「VidyoRoom HD-40 は、会議室(グループ向け)あるいはデスクトップ向けのどちらのスタイルでも活用が可能となっている。また、本体が小型でディスプレイに VESA マウントできるため、当社ブランドのデスクトップ用液晶ディスプレイと組み合わせた一体型パッケージも予定している。」(プリンストンテクノロジー)

プリンストンテクノロジーでは、VidyoPanorama 600 と HD-40 の追加により、さらに多くの日本のお客様に強力なビデオ会議エクスペリエンスをもたらすことができるようになることを期待する。

なお、プリンストンテクノロジーは、3 月 1 日より「株式会社プリンストン」と社名を変更する。

■ポリコム社、「Microsoft Lync」用ビデオ会議システム「Polycom CX8000」を発表

ポリコム社(米、カリフォルニア州、ポリコムジャパン株式会社)は、「Microsoft Lync」用ビデオ会議システム「Polycom CX8000」を発表した。マイクロソフト社との連携を強化する。(米:2 月 4 日、日本:2 月 17 日)

Polycom CX8000 は、マイクロソフト社 Lync との相互運用または連携に最適化されたコラボレーションソリューション。



Polycom CX8000 (ポリコム社 資料)

Lync に対応した 40 を超えるソリューションポートフォリオに新たに加わる。HD 品質の映像とシンプルな操作性が特長。

プレゼンス、コンタクトサーチ、インスタントメッセージング、HD ビデオ会議、HD 音声、ホワイトボード、タッチディスプレイ対応プレゼンテーション、アプリケーション共有、共有ドキュメントの編集など多彩な機能を搭載している。

またオプションとして、360 度パノラマカメラにより、Lync の機能を会議室でも利用できるようになる。

■IIJ グローバル、マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de! World」のラインナップを拡充

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ(東京都千代田区)は、クラウド型マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de! World(コラボ・デ・ワールド)」のラインナップを拡充し、重量制多地点接続サービスと共用型インターネットゲートウェイサービスを 3 月 3 日より提供開始する。(2 月 19 日)

COLLABO de! World は、ビデオ会議システムを IIJ のクラウドサービス「IIJ GIO(ジオ)サービス」の基盤上で提供するクラウド型マネージドビデオ会議サービス。世界 50 か国以上で利用することが可能となっている。設計から端末調達、導入、運用、ヘルプデスクまでワンストップで提供するマネージドサービス。

今回発表された新しい品目は、使用頻度や接続時間の少ないユーザに向けたもの。

従量制多地点接続サービスは、COLLABO de! World のゲートウェイサービスを利用のユーザを対象に複数拠点で同時接続する際に必要な多地点接続装置の機能を時間貸しで提供するサービス。利用時間とポート数に応じた従量課金となっているため、会議の回数や接続時間の少ないユーザに最適だ。利用料金は、2 時間 5,000 円/ポート、追加 1 時間 2,000 円/ポート。最大接続数は 20 ポートまで。

ゲートウェイ共用型インターネット接続タイプは、インターネット経由でビデオ会議端末が接続できるゲートウェイ機能を共用型で提供する。端末単位で契約できるため、接続台数が少ない場合に安価に利用できる。費用は、ビデオ会議端末 1 台あたり:初期費用 10,000 円、月額費用 12,000 円。シスコ社製 Cisco TelePresence 製品のみ接続可能。

なお、新規で COLLABO de! World 契約の場合、ゲートウェイ共用型インターネット接続タイプについては1か月分の月額費用を、従量制多地点接続サービスについては2時間/日x4回分を、無償で提供する。キャンペーンは3月3日から4月25日まで。

■メディアプラス、1.9GHz 帯デジタルワイヤレスマイクシステム新製品の国内発売開始

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、デジタルワイヤレスマイク製品メーカー Revolabs 社(レボラプス、米国マサチューセッツ州)の新製品「Executive Elite」と「HD Dual」の2モデルについて2月21日より日本向け発売する。メディアプラスは国内販売代理店。(2月21日)

Executive Elite は、会議室や研修室に最適な DECT 規格(1.9GHz 帯)デジタルワイヤレスマイクシステム。

256bit 暗号化通信と60秒毎の自動更新によりセキュアなワイヤレス。また AVB・アナログ・USB のオーディオ接続に対応しさまざまな用途に使用できる。外部アンテナユニットを天井や壁面に設置し、受信機からイーサネットケーブルで接続することで、会議室への設置をより自由に行うことが可能という。



Executive Elite、及び Elite マイクロフォン(ウェアラブルマイク、パウンダリマイク、ウェアラブルマイク、XLR アダプタ、ミニ XLR アダプタのマイク、マイクアダプターを自由に組み合わせることが可能となっている。Revolabs 社初とな

る。HD Dual は、Revolabs 社のフラッグシップ製品である「Executive HD」と同様のオーディオクオリティを実現しながら、限りなくコンパクト化を実現したモデル。2本のHDマイクを使用可能。ベースステーションにはアンテナを内蔵し、オーディオ端子として3.5mmのミニ端子を有している。テレビ会議システムに接続して使用したり、小会議室や教室での使用に最適という。

る。HD Dual は、Revolabs 社のフラッグシップ製品である「Executive HD」と同様のオーディオクオリティを実現しながら、限りなくコンパクト化を実現したモデル。2本のHDマイクを使用可能。ベースステーションにはアンテナを内蔵し、オーディオ端子として3.5mmのミニ端子を有している。テレビ会議システムに接続して使用したり、小会議室や教室での使用に最適という。

充電式となっており、一度の充電により最大8時間ないし最大12時間(モデルにより異なる)の連続使用が可能となっている。

8chモデルと4chモデルの2種類を提供する。いずれも、ベースステーション(受信機)、チャージャーベース(充電器)、リモートアンテナ、電源を含む。3年のゴールドサービス付でオープン価格。その他、ウェアラブル・テーブルトップ・グースネックなどマイクやアダプタも別途提供している。(価格の詳細についてはメディアプラスに確認要)

なお、Executive Elite は、同時使用ができるチャンネル数に特徴があり、日本型番では、最大80chの同時使用が可能となる予定。



HD Dual、及び HD マイクロフォン(パウンダリマイク、ウェアラブルマイク) (メディアプラス 資料)

一方、HD Dual は、Revolabs 社のフラッグシップ製品である「Executive HD」と同様のオーディオクオリティを実現しながら、限りなくコンパクト化を実現したモデル。2本のHDマイクを使用可能。ベースステーションにはアンテナを内蔵し、オーディオ端子として3.5mmのミニ端子を有している。テレビ会議システムに接続して使用したり、小会議室や教室での使用に最適という。

HD Dualも充電式で、一度の充電により最大8時間の連続使用が可能となっている。

提供するモデルは2chモデルのみ。ベースステーション(受信機)、チャージャーベース(充電器)、電源を含む。3年のゴールドサービス付で価格は133,000円(税別)。その他、

ウェアラブル・テーブルトップなどマイクやアダプタも別途提供している。(価格の詳細についてはメディアプラスに確認要)

なお、出荷に関しては、Executive Elite が4月上旬を予定しており、HD Dual については受注次第出荷可能となっている。

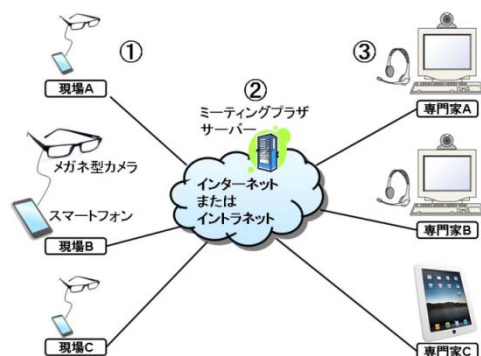
■NTT アイティ、カメラ型カメラとスマートフォン/タブレットを利用して Web 会議に参加できる「ミーティングプラザ 見てコラボ」を発売

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、市販のカメラ型カメラとスマートフォン/タブレットを利用して Web 会議に参加できる「ミーティングプラザ 見てコラボ」を3月10日より販売開始する。(2月21日)

ミーティングプラザ 見てコラボは、現場の担当者が装着しているメガネ型カメラの映像音声を、遠隔地の専門家が見て聞いて、指示を与え、共同作業を行うことにより、現場作業の効率化を図る製品。クラウドとオンプレミスで提供する。

ミーティングプラザを工事現場などで利用しているユーザーからハンズフリーで使いたいという要望が寄せられ、メガネ型カメラを提案した。またその際に、遠隔地から現場端末の、画像品質や音声ボリュームなどの各種設定ができる機能も付加した。現場では設定等を行っている余裕がないため。

ミーティングプラザ 見てコラボは、(1)現場のメガネ型カメラとスマートフォン/タブレット、(2)ミーティングプラザサーバー、(3)遠隔地の PC・タブレットで構成されている。



ミーティングプラザ 見てコラボ 概要(NTT アイティ 資料)

メガネ型カメラ(重さ:50g)は、Web カメラ、マイク、骨伝導スピーカが内蔵されており、スマートフォン/タブレットと有線で接続されている。また現場のスマートフォン/タブレットは、インターネット/イントラネット内のミーティングプラザサーバを介して、遠隔地の PC やタブレットと接続される。

なお、スマートフォン/タブレットは小型で作業服の中に入るため、両手があき、遠隔地からの指示に基づく作業を効率的に実行できるとしている。

一方、現場からの映像等を見る遠隔地の PC やタブレットは、画面に 32 拠点までの映像を表示できるため、多拠点の現場の映像を同時に見ながら、それぞれに指示を出すことが可能となっている。

加えて、遠隔地から現場端末の各種パラメータを設定することが可能となっている。映像音声ドライバーの設定、映像フレームレート、画像サイズの設定、音声ボリュームの設定などが自由に操作できる。



遠隔から現場端末各種パラメータを設定する画面(NTT アイティ 資料)

今回の発表では、メガネ型カメラと接続可能端末として最初に小型 Windows タブレットで機能を実現した(3月10日から)。今後、動作を確認次第、Android スマートフォン、タブレットを順次提供していく予定。一方、遠隔地側の端末としては、Windows PC、Android スマートフォン/タブレット、iPad/iPhone、Mac 等に対応している。

クラウドサービスは、月額使用料 2,500 円から。従来のサービスに追加料金なしで利用できる。オンプレミスについてはオープン価格となっている。

NTT アイティによると、販売目標は年間 50 サーバーステム、100 サービス契約となっている。

窓口は、NTT アイティ ミーティングプラザ事業部。

■グルー、WebRTC ベースのビデオチャットサービス開始

グルー株式会社(福岡県福岡市)は、WebRTC ベースのオンラインビデオチャットサービス「1meeting」(ワンミーティング)の提供を開始した。(2月25日)

1meeting は、パソコンに付属のローカルデバイス(カメラとマイク)を使って Web ブラウザでオンラインチャット可能なサービス。WebRTC 技術で構築されており、通信の新規格に対応したリアルタイムビデオ会議を行うことが可能。現在対応しているブラウザは、Google Chrome、Mozilla Firefox、Opera(すべて最新版推奨)で、プラグインやログインは一切不要となっている。いつでもどこでも誰とでも気軽に利用できるとしている。ただし、Mac と Windows のみ対応しており、iOS や Android は非対応となっている。

利用方法については以下の通り。(1)1meeting のサイトへアクセスし自分のチャットルーム名を入力する。(2)パソコンのカメラとマイクを許可する。(3)チャットルームの URL をクリックしチャットしたい人へ送る。(4)相手が URL を受け取り、同じ URL へアクセスするとすぐにチャットが開始される。

現在、このサービスは無料で利用できるが、今後オプション機能などを追加した有料サービスをリリースする予定となっている。

グルーの本社は福岡市中央区。事業内容は、動画配信、サーバインフラ支援・構築、インターネット関連、ソフトウェア開発となっている。

製品・サービス動向-海外

■Synergy SKY 社、VaaS あるいは UCaaS プロバイダー向けのマルチベンダー、マルチテナントマネージメントソリューションを発表

Synergy SKY (シナジースカイ)社は、VaaS あるいは UCaaS プロバイダー向けのマルチベンダー、マルチテナントマネージメントソリューション「The Synergy SKY solution」を発表。(1月9日)

The Synergy SKY solution は、VaaS あるいは UCaaS プロバイダーがマルチテナントのサービスを展開する上で必要と

なる、モニタリング、レポート、分析、端末/クライアントの大規模展開(mass provisioning)、グローバルディレクトリーサービス、スケジューリング、会議管理、課金の各種機能を自動化するソフトウェアプラットフォーム。シスコシステムズ、パリコム、Acano、Pexip など各社に対応する。

Synergy SKY 社は、サービスプロバイダーがビデオ会議やユニファイドコミュニケーションサービスを展開する上で障害となりえる課題を解決するソリューションを提供する目的で2007年に Eivind Larsen 氏と Stale Reitan 氏によって設立。北欧諸国のサービスプロバイダー向けのコンサルティングと導入支援(implementation)を行ってきた。なお、1月13日のプレスリリースによると、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン向けに Lync やユニファイドソリューションを提供する TDC Finland 社が The Synergy SKY を採用したと発表されている。

ビジネス動向-海外

■ハイブリッドクラウドに対応した HD ビデオコラボレーションソリューションを提供する Evogh 社、アジア太平洋地域へ進出目指す



SeeVogh(シーボ)画面例 (Evogh 社 資料)

ハイブリッドクラウドに対応した HD ビデオコラボレーションソリューションをサービスプロバイダー向けに提供する Evogh 社は、アジア太平洋地域へのビジネス拡大を強化する。(SeeVogh で遠隔取材:2月12日)

Evogh 社の創立者である Harvey Newman 氏と Philippe Galvez 氏は、20 年以上も前から、自らが勤務するカリフォルニア工科大学(Caltech)において、ソフトウェアビデオ会議システムを活用した新しいコラボレーションの方法を研究してきた。科学を前進させるためグローバルな研究者ネットワークで利用できるビデオ会議ソリューションを提供するためだ。

そして、2006 年に Evogh 社が、Caltech からスピアウトして営利企業 (commercial enterprise)として設立された。同社は個人投資家による出資で設立されており株式非公開企業。本社は、Caltech の近く、米国カリフォルニア州パサデナにあり、拠点は米国内や欧州にある。

設立以来、ジュネーブにある大型ハドロン衝突型加速器 (LHC)に関連した世界 50,000 人を超える研究者(日本の某研究機関も含まれる)たちのネットワークの中でこの Evogh 社のソフトウェア型ビデオ会議システム「SeeVogh(シーボ)」が利用されている。また、Internet2 でも活用されている。

SeeVogh は、仮想化技術によるクラウドサービスとマルチテナントのサービス展開が可能なソフトウェアベース HD ビデオプラットフォーム。PC (Windows、Mac、Linux)、スマートデバイス (iOS、Android)、既存のビジネス向けビデオ会議システム (H.323・SIP・TIP)といったマルチデバイスに対応している。

また、デスクトップ共有 (拡大・切り離しなどの柔軟な操作が可能)やテキストチャット、ネットワークの状況に応じて行う柔軟な帯域制御、会議予約 (Outlook 連携可能)、ダイヤルアウト/インなどの機能を搭載している。加えて、日本語を含む多数の言語に対応している。

シンプルなインターフェイスと柔軟なカスタマイズ (API 提供)、低コストライセンス体系「USHI(Unlimited Self-Hosted Instance)」は、競合他社と比べて上での強みと強調する。

Evogh 社によると、SeeVogh は、サービスプロバイダーへ 10,000 ドル～/100 ポート (年間)で提供するという (100 ポートには無料のクライアントライセンスと Web ポータルが含まれる)。ホワイトラベル (OEM) に対応しており、無料のトレーニングとサポートも行う。SeeVogh 導入後の利益共有 (revenue

share)はないため、サービスプロバイダーにとって、低コストで高品質なソフトウェアベース HD ソフトウェア型ビデオ会議サービスが開始できるという。

SeeVogh は、サービスプロバイダー向けでエンドユーザーへの直接提供は考えていないという。「当初は、研究者向けのビデオ会議ソリューションだったが、今後、リセラーやインターネットサービスプロバイダなどへの販売を加速していく考えた。アジアはこれからで、今後新しいパートナーを開拓し SeeVogh を広めていきたい。」(SeeVogh)

■アルカディン社、コンサルティングおよびホスティングサービスプロバイダーimplement.com 社の買収、ユニファイドコミュニケーションをさらに牽引

アルカディン社 (フランス、パリ、日本法人:アルカディン・ジャパン株式会社)は、コンサルティングおよびホスティングサービスプロバイダーimplement.com 社の買収を発表した。(JCNnetwork:2 月 13 日)

implement.com 社は、課題解決型コンサルティングサービスをマイクロソフトテクノロジー向けに行い、Chinook Communications 社を通じてさまざまなユニファイドコミュニケーションサービス (UCaaS)を提供している。主要マイクロソフトパートナーでシアトルに本拠を置く。

UCaaS (Unified Communications as a Service)はコラボレーションビジネスで成長中の分野でアルカディン社のコラボレーション戦略の中心である。今回の買収はアルカディン社にとって戦略的な買収という。加えて、ホスティッドテレフォニーや、「Exchange」、「Lync」、「SharePoint」などマイクロソフトアプリケーションに関する専門知識をアルカディンに生かせることができると期待している。

アルカディン社は、Chinook Communications 社のマルチテナント UcaaS サービスバンドルを「Arkadin Total Connect」ブランド名の下で北米の顧客に提供する計画。パッケージには、音声、「Microsoft Exchange」、「Lync」、「SharePoint」などが含まれている。今後、その他の地域でも段階的に提

供開始する。アルカディン社は今後数か月程度で、プライベートクラウドオプションも展開予定という。

■ライフサイズ社創業者 Craig Malloy 氏、ライフサイズ社 CEO に復帰

ロジテック(Logitech)社(スイス)は、ライフサイズ(LifeSize)社の創業者である Craig Malloy 氏がライフサイズ社 CEO として、また、Logitech 社の上級副社長として、復帰したと発表。(2月13日)

Malloy 氏は、2003年にライフサイズ社を創業し、2009年にはロジテック社による買収手続きに関わり、2012年までライフサイズ社の CEO として務めた。その後も、これまでライフサイズ社とは緊密な関係を取り続けてきており、ライフサイズ社監査委員会(supervisory board)の副会長を務めてきている。

ロジテック社の社長兼 CEO Bracken Darrell 氏は Craig Malloy 氏のビデオ会議業界での長年の経験とリーダーシップに期待感を示すコメントを出している。

■Pexip 社、「Pexip Infinity」と「Lync」のネイティブ連携で Illuminari Tech 社と提携

Pexip 社(ノルウェー、米国)は、Lync ソリューションを提供している Illuminari Tech 社(カナダ、カルガリー)と「Pexip Infinity」と「Lync」ソリューションの共同提供で提携した。Illuminari Tech 社は Microsoft Gold Communication Partner 兼 Certified Trainers。(2月17日)

スケーラブルな分散型ソフトウェアプラットフォームである Pexip Infinity は、SIP、H.323、Microsoft Lync、WebRTC を相互接続(MCU やゲートウェイなどの機能がある)しビデオ会議ネットワークの運用管理を効率化する特長を持つ。今回の発表では、Pexip Infinity プラットフォームが Microsoft Lync のビデオ、音声、モバイルの機能をネイティブに拡張させることで、企業のビデオ会議システムや VOIP インフラストラクチャーに統合させるソリューションを両社が共同で提供する目的がある。

なお、Pexip 社から 1月26日付けのプレスリリースには、Pexip Infinity が「Microsoft Lync 2010」、「Microsoft Lync 2013」、「Lync Online」にネイティブ対応しており、既存のビデオ会議システムとシームレスに接続できると発表している。

■Synergy SKY 社、ニューヨークに事務所を開設、アメリカに進出

Synergy SKY(シナジースカイ)社は、ニューヨークに事務所を開設と発表。(1月16日)

南北アメリカにおける事業開拓に乗り出した。同社設立に出資した NewCap 社が北米進出についても資金提供した。NewCap 社は Patrik Christiansen 氏と Par Stenstiema 氏がベンチャーキャピタルとして設立している会社で、以前両氏は Visual Conference Group 社を共同で創業した仲。なお、この Visual Conference Group 社は Interoute 社に 2011 年に買収された経緯がある。

本社はノルウェー オスロー。オフィスは、スウェーデンのストックホルムとヨーテボリ(Gothenburg)にある。

導入事例-国内

■北陸銀行、テレビ会議システムの全店舗設置

株式会社北陸銀行(富山県富山市)は、2月末を目処に全店舗にテレビ会議システムを設置すると発表した。(2月21日)

これまで、テレビ会議システムは、本部含めて 23 か所の各地区母店等にのみ設置していたが、今回、本部を含め 189 か所全店舗に設置箇所を拡張する。本部・営業店間の各種会議や打ち合わせ、研修等に活用する。

また、テレビ会議システムを利用して、来店する顧客と本部の専門行員と直接相談等が出来る体制の構築や、全行員に対する研修を充実させることで、顧客へのより一層のサービス向上に向けた取り組みを進めていくとしている。

株式会社北陸銀行 <http://www.hokugin.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

■WebRTC 活用セミナー～WebRTC/SIP 対応ソフトウェアメディアサーバプラットフォーム「Dialogic(r)PowerMediaXMS」のご紹介～

日時:3月10日(月)14:00～17:30(受付:13:30)

会場:NTT-AT 本社プレゼンルーム

主催:NTT アドバンステクノロジー株式会社 グローバルプロダクツ事業本部

詳細・申込:

<http://www.ntt-at.co.jp/eventseminar/seminar/2013/detail/s.20140310/>

■【“見える”カレッジ】営業マネジメントセミナー～状況判断・対策策定・指導力を強化する方法～

日時:3月13日(木) 14:00～16:30 (受付:13:30)

会場:ブイキューブ 本社(東京都目黒区)

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/123>

■Polycom Day『ワークスタイルの変革 - 多様な働き方をポリコムが実現します』

日時:3月26日(水) 15:30～16:30 (受付:15:15)

会場:ポリコムジャパン セミナールーム

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

■後悔しない Web 会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー

日時:3月27日(木)15:30～17:00 (受付:15:00)

会場:キヤノンソフトウェア本社(天王洲アイランド)

主催:キヤノンソフトウェア株式会社

詳細・申込:<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/164>

国内その他:<http://cna.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cna.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNA Report Japan 情報発信について

CNA レポート・ジャパン(橋本啓介)が行っている情報発信は、以下から行っています。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、橋本による直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):遠隔会議関連の国内外の情報。橋本がインターネットを通して収集したさまざまな情報(収集は毎日。方法は、検索、RSS、ポータルサイト、ブログ、メディア、youtube、プレスリリース、メルマガなど)。

遠隔会議について、プレスリリース以外のさまざまな情報を得たい場合は、dtc-forum やフェイスブック、Twitterをおすすめします。詳細は、<http://cna.jp> をご覧ください。

配信している情報は、遠隔会議のトレンドを知る上で国内外を問わず大事な動きであろうと思われるものを配信しております。ご自身の情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

最近のニュースで、カバーできていないニュースがいくつかありますので次号以降で掲載していく予定です。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介